

Question.

認知症患者への歯科治療ではどんなことに気をつける必要がありますか？

質問者

(秋田県 Mさん・85回)

Answer.

◆はじめに

認知症とは、正常に発達した知的機能が後天的な器質的障害によって低下し、日常生活や社会生活に支障をきたすような状態と定義されています。

認知症が進行すると、口腔衛生状態の悪化や歯科治療および口腔ケアの拒否が見られるようになり、大きな歯科の問題へと発展します。

◆認知症患者の理解

認知症患者は常に大きな不安感を抱き、混乱しやすい状態にあります。私たちが歯科医師であることを理解できないまま、いきなり「はい、口を開けて」と促されても、これから行われる歯科治療行為を理解できていなければ、認知症患者にとっては受け入れがたく、強い拒否や暴力、暴言となって反応する可能性があります。また、治療やケアに伴う「痛み」は受診拒否に直結するため、十分な配慮が必要です。患者の心理状態を常に考えつつ、安心感を与える声掛けや無理のない治療計画のもとで、治療可能範囲も徐々に広げていくようにします。

◆認知症が進行する前に

認知症が進行すると、難易度の高い歯科処置が困難になることは言うまでもありません。予後を見据えた治療計画を立案し、認知症が進行する前に、今できる治療を確実にしておくことは、非常に有益です。長期的に安定した口腔環境を保てるよう整備しておくことは、われわれ歯科医師の責務です。

◆認知症患者への対応

認知症の進行した患者では、治療への理解が得られない場合があります。

治療の緊急性が高い場合には、抑えが必要となることもあります。抑え方は拒否の程度により異なりますが、全身を固定するかどうかのような抑制や、長

時間の抑え込みは、過剰な拒否反応を招く恐れがあり、拒否がますます増加することが懸念されます。抑える場合には最低限の範囲内にとどめ、なるべく短時間で行います。

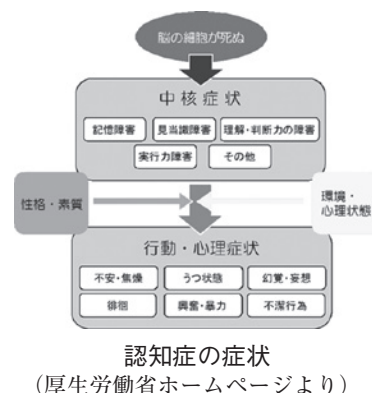
例えば手を抑える場合には、握手をするように握ることで、安心感を与えると同時に、危険が少なくコントロールがしやすくなります。訪問診療の現場では頭部の固定も重要です。治療への拒否が見られると頭部が動き、器具を口腔内に挿入している場合は非常に危険です。介助者が頭部を支えてあげることで、不意な動きにも対応でき、患者も楽な姿勢で治療を受けることが可能となります。

開口拒否がある場合は、開口を促す方法として、「歯ブラシを口元に当てる」、「スポンジブラシで口の周りを保湿する」、「口腔周囲をマッサージする」などが有効です。また、臼後部の刺激により開口する場合もあり、有効とされています。開口が得られれば、開口器にて開口保持を行います。装着する歯は、動揺が無く、破折を起こさない歯を選択します。かける歯が無い場合や粘膜に噛ませる場合には、シリコン製やゴム製の開口器が有効です。

口腔内への器具挿入時は、不意に噛まれることもあるため、口腔前庭に沿わせながら挿入し、術者の手も、咬合面には置かないように注意しましょう。

◆まとめ

認知症患者が年々増加していく中で、歯科医師として果たすべき役割は多く、その患者さんの最期まで口腔の健康を維持していくことは、われわれ歯科医師の使命です。そのためには、認知症患者を正しく理解し、励まし、支えていく気持ちは何よりも大切です。諦めずに粘り強く、できることを継続していくことがその患者さんのためになると考えています。



質問の回答者



あかどまり けいた
赤泊 圭太

新潟病院 訪問歯科口腔ケア科